

PRESS RELEASE

同時発表：国土交通記者会
国土交通省建設専門紙記者会
東京都庁記者クラブ

森トラストグループ秋季震災訓練を実施

「中央区帰宅困難者支援施設運営協議会訓練」に京橋トラストタワーが参加
グループ社員の防災知識向上と実地訓練を連携した新たな PDCA サイクル試行訓練

森トラスト株式会社（本社：東京都港区、社長：伊達 美和子）は、2017 年度秋季震災訓練を以下のとおり実施しましたのでお知らせいたします。

今回の訓練では、中央区および区内の事業者により行われた「中央区帰宅困難者支援施設運営協議会訓練」への参加、並びにグループ社員の防災教育及び災害時初動確認の実地訓練を連携した新たな PDCA サイクル試行訓練を行いました。

森トラストグループは、「持続可能で先進的な街づくり」という理念のもと、原則として春季（3月）と秋季（9月）に行う震災訓練を中心に、年間を通じて多様な災害対策訓練を実施しております。本年3月の総合震災訓練では、東京駅隣接の「丸の内トラストシティ」において帰宅困難者受け入れ訓練を行ったほか、幹線道路沿いの10施設において通信機器充電スポットの設営訓練などを実施しました。

来年3月にも、全社員で実施する総合震災訓練を予定しており、様々な訓練を継続して実施することで、災害発生時に迅速な対策活動に取り組むことができるよう努めてまいります。

「中央区帰宅困難者支援施設運営協議会訓練」への参加

「防災週間（8月30日～9月5日）」の取り組みの一環として、中央区および区内の事業者約30団体が参加する「中央区帰宅困難者支援施設運営協議会訓練」が9月3日に行われました。当社は、地域連携による防災体制強化のため、「京橋トラストタワー」の公開空地において、帰宅困難者の一時待機場所としての受け入れ・誘導訓練に参加しました。

「森トラストグループ震災訓練」～防災知識向上と実地訓練を連携した新たな PDCA サイクル試行訓練～

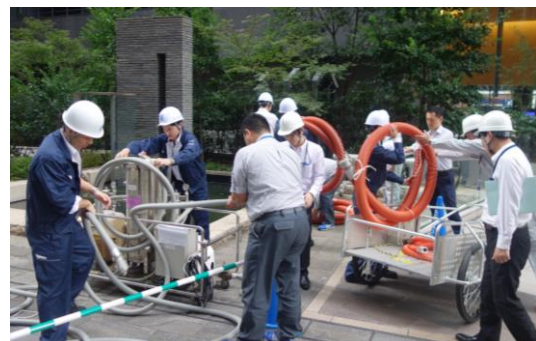
今回の訓練では、まず、初動体制に関する既存課題の検証・改善を全社で行ったうえで、9月6日から12日にかけて動画視聴を通じたBCPに関する知識の習得とそれらの定着度を測るテストを実施し、社員の防災知識の習熟度向上を図りました。

その成果を基に、本日9月27日に、さらなる課題の発見・解消に向けた新たなPDCAサイクルの試行と災害発生時の初動体制の強化を目的とした「災害時初動確認の実地訓練」を実施いたしました。

※ PDCA サイクル：Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する手法。



京橋トラストタワーでの訓練(9月3日)



丸の内トラストシティでの訓練(9月27日)

【森トラストグループ震災訓練 概要】

場所：森トラスト株式会社本社（虎ノ門2丁目タワー）および当社保有ビル15施設

9月6日（水）～9月12日（火）実施の訓練

災害発生時における初動対応業務の再確認や防災知識の習熟度向上を目的とした、グループ社員への防災教育を行いました。

1. BCPに関する動画視聴

東日本大震災発生時の映像集や、内閣府が大規模地震の被害及び対策の普及・啓発を目的として作成した首都直下地震の被害想定に関する動画を、各社員が視聴しました。

2. BCPに関するテストの実施

上記の動画の視聴や、災害発生時の社内体制および対応すべき業務について各社員が再確認したうえで、首都直下地震の被害想定や震災発生時の対応業務、使用する通信ツールなどに関する確認をテスト形式で森トラストおよび森トラスト・ビルマネジメント社員約350名が実施。社員の確実な知識定着を図りました。

本日9月27日（水）実施の訓練

都心南部を震源とするM7.3の地震が平日日中に発生し、港区において震度が6強になる想定のもと訓練を行いました。

1. 安否確認訓練

緊急時において、社員・家族の安否確認及び情報伝達のツールとして導入している緊急連絡システムを活用し、森トラストおよび森トラスト・ビルマネジメント社員が訓練に参加しました。本部からの指示の周知および各社員が登録した安否情報を集計するとともに、活動の体制を迅速に構築するため、初動活動要員・復旧活動要員として活動可能な社員を把握する訓練を実施しました。

2. 本社での初動確認訓練

各部署で災害発生時の初動対応業務や業務体制について全社員が確認したうえで、実際に担当業務を実施しました。また、「災害対策本部」を設置し、被害状況を各ビルとリアルタイムで共有できる「森トラスト震災ポータルシステム」、災害時でも複数のビルと通信可能なWeb会議システム等の非常用通信ツールを使用した訓練を行い、震災時のインフラ環境に応じた連絡体制の有効性を確認しました。



災害対策本部の様子

3. 各ビルへの出動および対応業務支援

本社に勤務する社員が、災害対策本部の指示により当社が保有する各ビルへ出動し、各ビルの業務を支援するとともに震災井戸や仮設トイレの設営などの訓練を行いました。



仮設トイレ設営の様子

【森トラストグループの災害に関する訓練の一例】

休日・夜間・早朝の発災を想定した訓練(2016年11月)

防災社宅[※]に居住する社員による防災社宅訓練・各ビルの現場訓練・一般社員が参加する安否確認訓練を合わせて行いました。休日・夜間・早朝に発災した際の切れ目のない災害対策のシミュレーションを実施することで、情報連携体制や被災ビル支援活動等を確認しました。

※ 防災社宅：森トラストグループでは震災等発生時の早期対応を目的として社宅を設けています。

徒歩出社・帰宅訓練

避難所、帰宅支援ステーション、危険となりうる箇所の把握や、徒歩出社・帰宅の体感のために、勤務地から自宅までの10km程度を徒歩にて帰宅(出社)する訓練を毎年実施しています。また、昨年(2016年)は、社員が徒歩で通勤途中に確認した危険箇所などの情報を社内SNSに投稿し、安全な経路を社員間で共有する取り組みを試験的に行いました。

帰宅困難者受け入れ訓練(2017年3月)

「帰宅困難者等一時受入施設」として千代田区と協定を結んでいる、「丸の内トラストシティ」において、総勢約100名の当社社員らが、スタッフ役と帰宅困難者役に分かれて帰宅困難者の受け入れ訓練を実施しました。

インバウンド増加によりニーズが高まる外国人向け多言語対応を強化すべく、帰宅困難者役として英語・中国語・韓国語・タイ語・ポルトガル語などを母国語とする外国人が参加し、外国語対応が可能な当社社員および同ビル内の観光インフォメーションセンター「T I C TOKYO」^{ティエイシー トウキョウ}スタッフによる対応を行いました。また、メガホン型多言語音声翻訳サービスや多言語音声翻訳アプリなどを用いて多言語での対応力の検証についても実施しました。

支援を要する帰宅困難者への対応としては、帰宅困難者の受入場所に、負傷者や介助が必要な方のためのエリアを設け、車いすの提供や筆談対応を実施しました。妊婦等の受け入れを想定して設けた女性専用エリアでは、女性スタッフが対応するなど受入環境を整備しました。



丸の内トラストシティでの帰宅困難者受入訓練(2017年3月)